

## 最近の転落事故の発生状況

(単位:件)

平成25年度

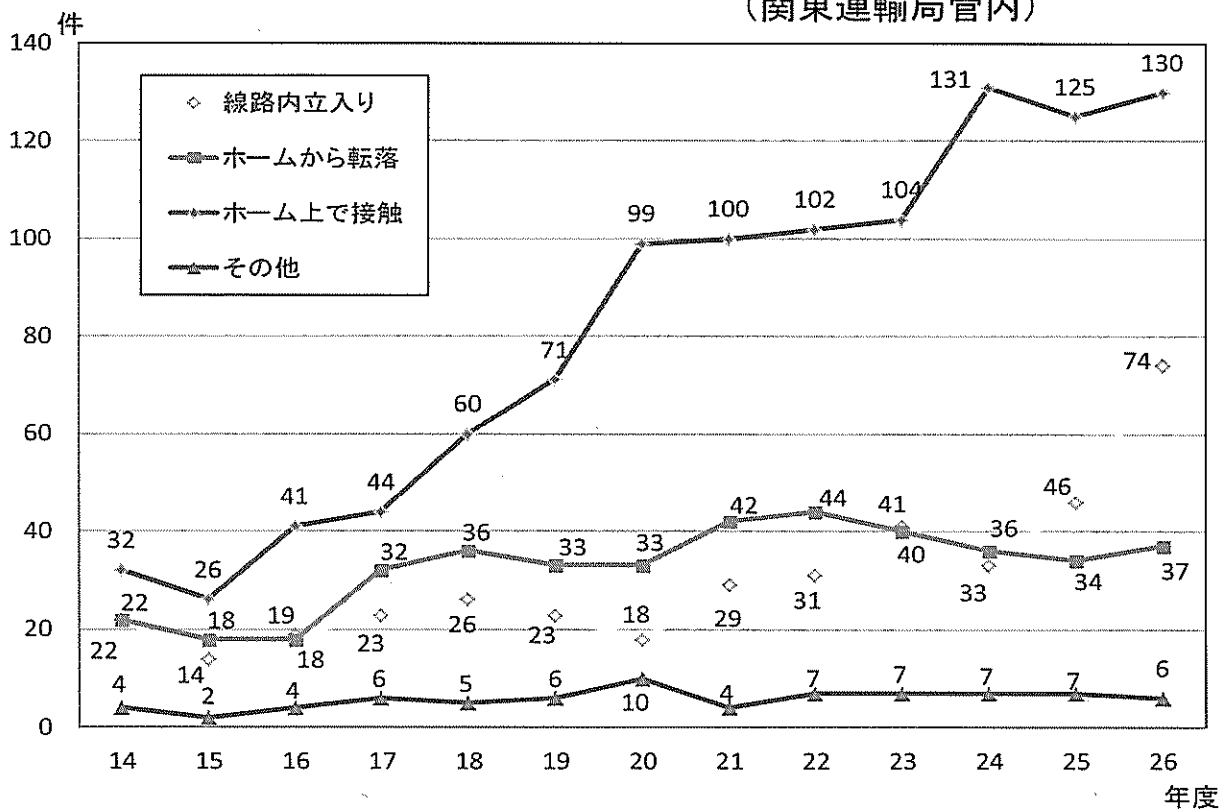
	ホームからの転落	ホーム上で接触	合計
全国	51	169	220
埼玉県	4	11	15

平成26年度

	ホームからの転落	ホーム上で接触	合計
全国	57	170	227
埼玉県	7	19	26

人身障害事故の原因別発生状況の推移

(関東運輸局管内)



※関東運輸局管内は東京都、神奈川県、千葉県、埼玉県、茨城県、栃木県、群馬県、山梨県が該当

# 「ホームドアの整備促進等に関する検討会」 中間とりまとめの概要

平成23年8月

## 1. ホームドア等の転落防止対策の優先整備駅の考え方

○視覚障害者からの要望が高い駅

・駅周辺の視覚障害者の関連施設やホームの状況等を勘案し、優先度や必要な対策等を検討

○駅の利用者数が多い駅

・利用者数1万人以上の駅で、ホームでの事故(1,253件<sup>注)</sup>)の約8割が発生

・このうち、特に利用者数の10万人以上の駅は、一駅当たりの事故発生件数(1.82件/駅)が多い

注)平成14～21年度の間ホームから転落又はホーム上で列車と接触により発生した鉄道人身障害事故件数

## 2. ホームドア等の転落防止対策の進め方

### 利用者数1万人以上の駅

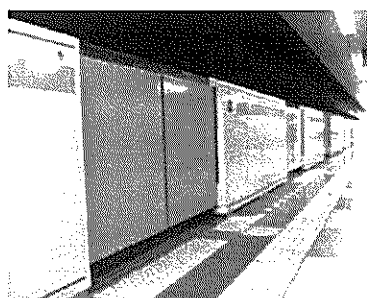
内方線付きの点状ブロック等の整備を可能な限り速やかに実施

### 利用者数10万人以上の駅

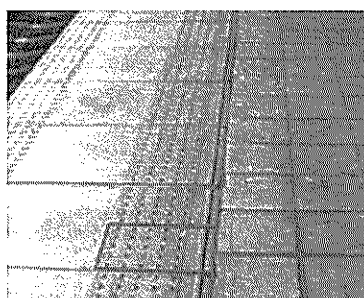
○ホームの状況等(混雑度や形状、事故の発生状況等)を踏まえ、ホームドア又は内方線付き・JIS規格対応の点状ブロックの整備を優先して速やかに実施(点状ブロックは概ね5年で整備)

○車両扉位置が一定である等、ホームドア設置が可能な駅は、停車時分の増加やコスト等の課題の検討を踏まえてその整備を優先。この場合、路線や区間単位による整備も検討

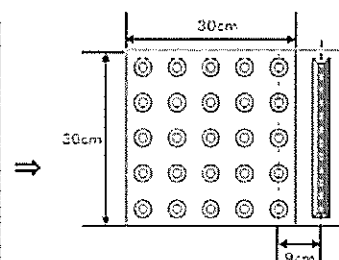
注)ホームドアの整備が困難な場合は、音声・音響・光等による列車接近警報装置や係員による人的介助等の総合的な対策を可能な限り速やかに実施し、転落防止対策の効果をより一層向上



【ホームドア】



【内方線付きJIS規格点状ブロック】



・点状突起25点(5×5)  
・ホームの内側を表示する線状突起(内方線)あり

## 「心のバリアフリー」に関するソフト施策の一体的な推進

○鉄道係員に対するバリアフリー教育、研修等の人的対応の充実

○旅客による視覚障害者への声かけやマナー、旅客のホームでの安全に関する教育啓発の強化

○駅の転落防止対策の状況等、駅に関する視覚障害者への情報提供 等

## 3. 転落防止対策の推進に対する支援

○国、地方公共団体による必要な支援

○車両扉位置の相違やコスト低減等の課題に対応可能な新たなホームドア等の研究開発の推進

○国、地方公共団体、事業者等関係者の連携による視覚障害者の誘導案内、啓発活動等のソフト施策の推進

## 4. 転落防止対策に関する計画の作成・公表

○今後の転落防止対策の進め方に関する方針、計画について、事業者が安全報告書等により公表

# 新たなタイプのホームドアの技術開発事例

参考資料

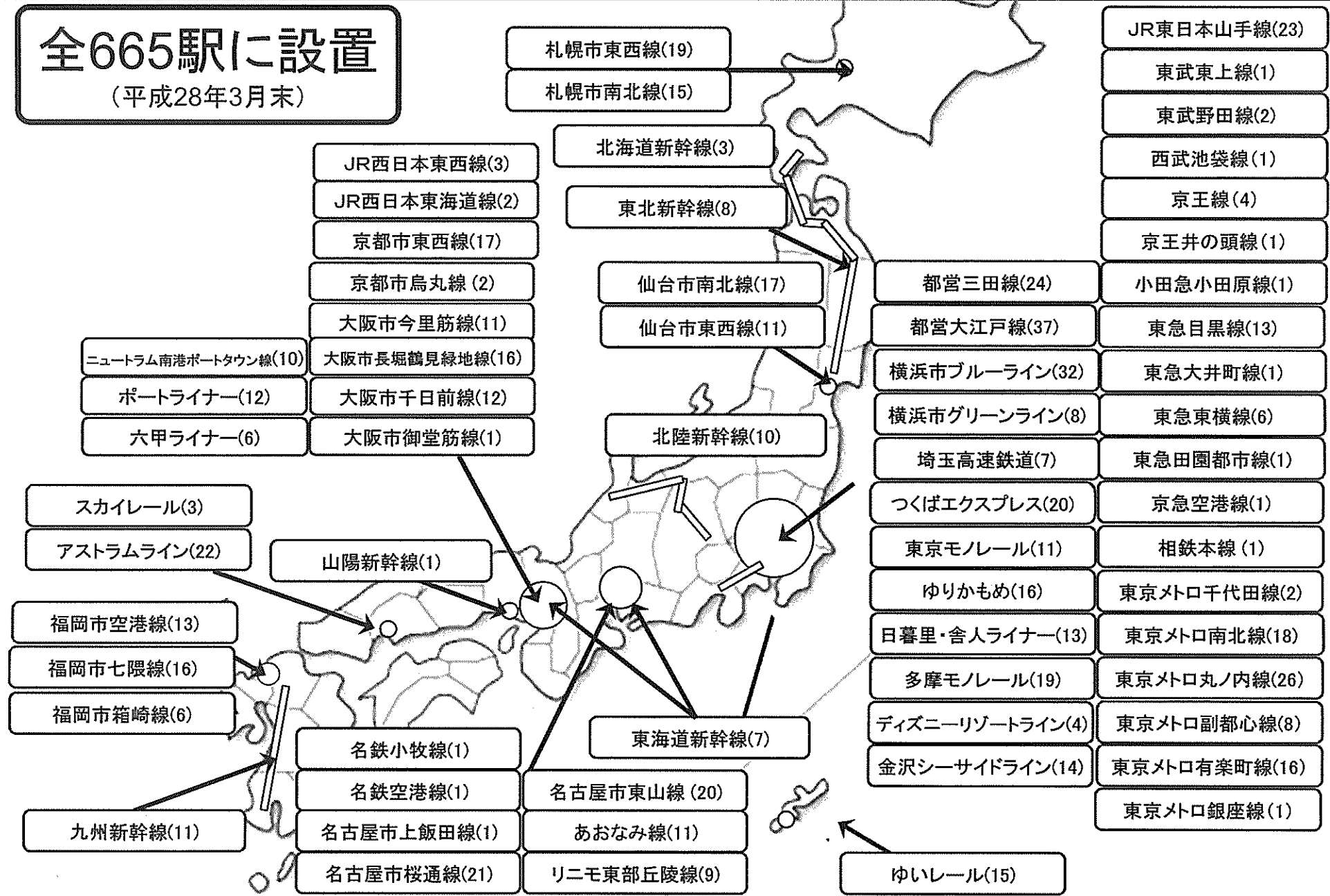
国土交通省

## ○車両扉位置の相違やコスト低減等の課題に対応可能な新たなタイプのホームドアの技術開発

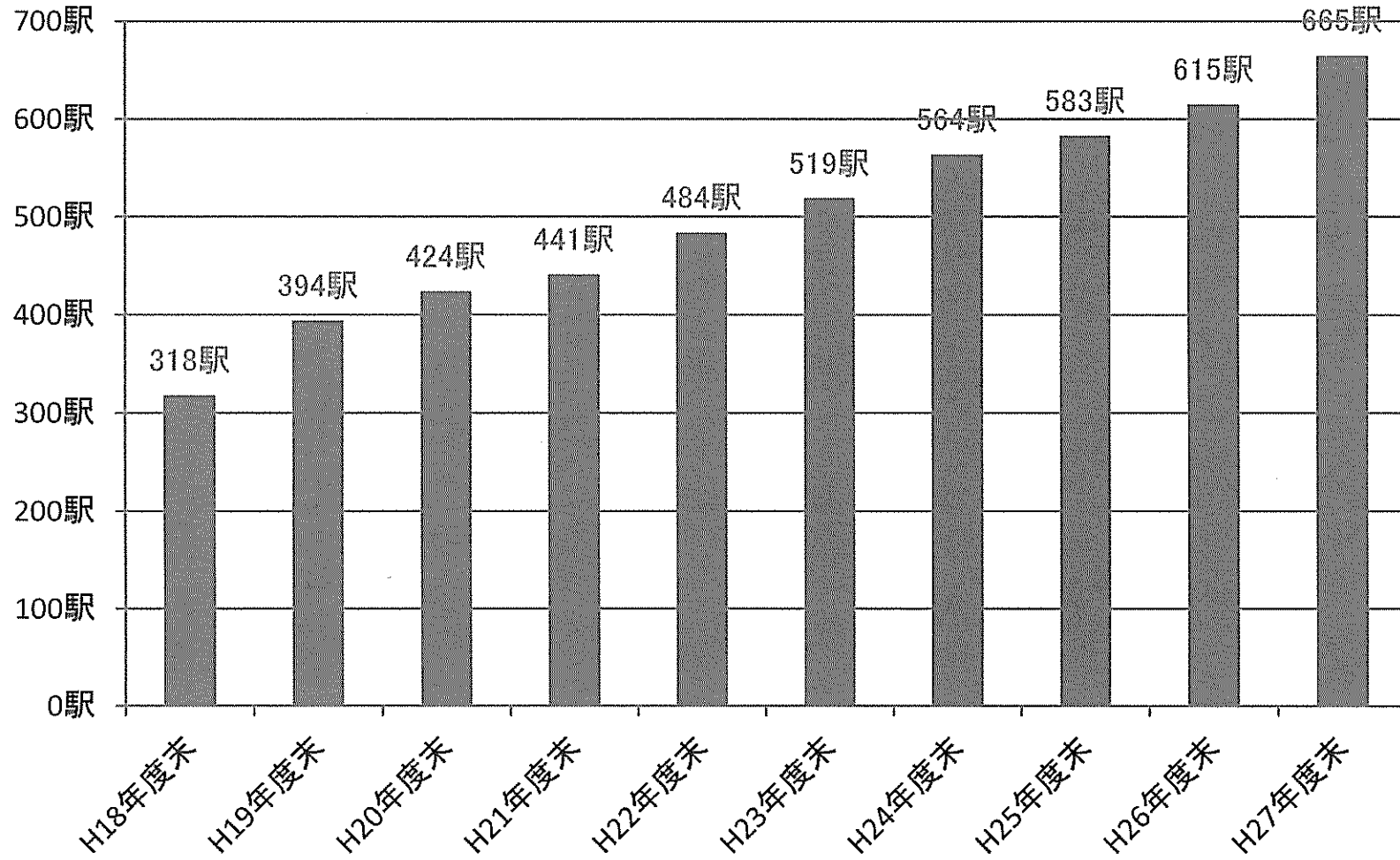
方式	戸袋移動型	昇降バー式	昇降ロープ式	昇降ロープ式(支柱伸縮型)	マルチドア対応ホームドア
開発主体	(株)神戸製鋼所	(株)高見沢 サイバネティックス	日本信号(株)	西日本旅客鉄道(株)	三菱重工交通機器 エンジニアリング(株)
概要	 <p>20m・4扉車(例) 18m・3扉車(例)</p>  <p>戸袋</p>	 <p>上昇時</p>  <p>下降時</p>	 <p>上昇時</p>  <p>下降時</p>	 <p>上昇時</p>  <p>下降時</p>	<p>4ドア</p>  <p>3ドア</p>  <p>2ドア</p> 
特徴	戸袋が移動することにより、異なる扉位置の車両やオーバーランに対応	ドア部分を昇降するバーやロープとすることにより開口部を広くし、異なる扉位置の車両やオーバーランに対応 ホーム基礎の補強工事を簡素化することにより設置コストを低減	ドア部分を昇降するロープとすることにより開口部を広くし、異なる扉位置の車両やオーバーランに対応 支柱を伸縮式とすることでホーム端の見通しを確保	ホームドアの開閉位置を変えることにより、異なる扉位置の車両に対応 地上センサーによりホームドアの開閉を自動化	
現地試験等	西武新宿線新所沢駅にて現地試験実施【H25. 8~H26. 2】	相鉄いずみ野線弥生台駅にて現地試験実施【H25. 10~H26. 10】	東急田園都市線つきみ野駅にて現地試験実施【H25. 10~H26. 9】	JR桜島線桜島駅にて現地試験実施【H25. 12~H26. 3】 JR東海道線六甲道駅にて試行運用【H26. 12~H27. 3】	本年秋頃より、京急久里浜線三浦海岸駅にて現地試験実施予定
実用化に向けた動き等		JR東日本がJR八高線拝島駅にて試行導入【H27. 3~】 下降時の支柱高さを抑えてホーム端の見通しを確保した新たなタイプを開発中		JR東海道線六甲道駅での試行運用の結果、実用化可能との判断により、同駅において継続設置【H27. 4~】 JR東海道線高槻駅にて稼働中【H28. 3~】	

# ホームドアの設置状況

全665駅に設置  
(平成28年3月末)



# 【ホームドア設置駅数の推移】



## 駅ホームからの転落防止対策

駅ホームからの転落事故が増加していることを受け、ハード対策、ソフト対策の両面から、駅の安全・安心をより効果的に促進するため以下の施策を行っています。

### ハード対策

#### ホームドアの整備促進

内容 ホームドア設置のため、ホーム改良・ホームドア設置工事に対し、経費の一部を助成

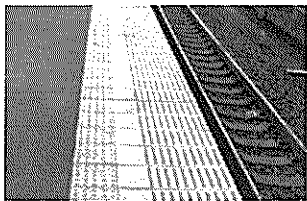


対象: 東武東上線 川越駅  
(平成28年度)

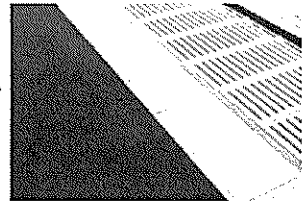
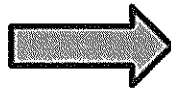
#### 内方線付き点状ブロックの整備促進

内容 内方線付き点状ブロックの整備補助を行う市町村に対し、経費の一部を助成

対象: JR川越線笠幡駅、東武野田線南桜井駅、西武新宿線新狭山駅など全10駅(平成28年度)



既設の点状ブロック



内方線付き点状ブロック

### ソフト対策

#### 視覚障害者への声かけサポート啓発事業

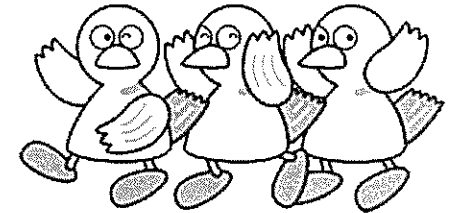
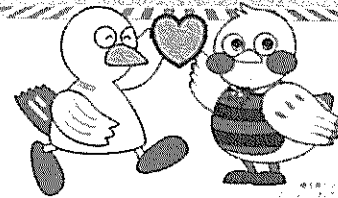
内容 視覚障害者の駅ホームからの転落事故防止のため、声かけ・サポートハンドブックを作成し、関係団体や介助に興味がある方に対して広く配布を行う。

目の不自由な方に対する  
駅ホームでの  
声かけ・サポート  
ハンドブック



リーダーがサポーターを養成するに当たり、養成するための資料としてハンドブックを作成。

今後、ハンドブックを関係団体や介助に興味がある方に配布し、サポーターの増加を図る。



行政と鉄道事業者が連携し、駅ホームからの転落防止に向け情報共有や意見交換を図る。

2016年7月14日  
東日本旅客鉄道株式会社  
大宮支社

## 浦和駅・さいたま新都心駅の 京浜東北線にホームドアを設置します

JR東日本では、ホームにおける安全対策として、山手線に続いてこのたび、埼玉県内のJR線では初めて浦和駅とさいたま新都心駅の京浜東北線ホームにホームドアを設置いたします。

なお、駅ホームドア工事については国およびさいたま市のご協力のもと、設置することとしましたのでお知らせします。

### 1 設置箇所

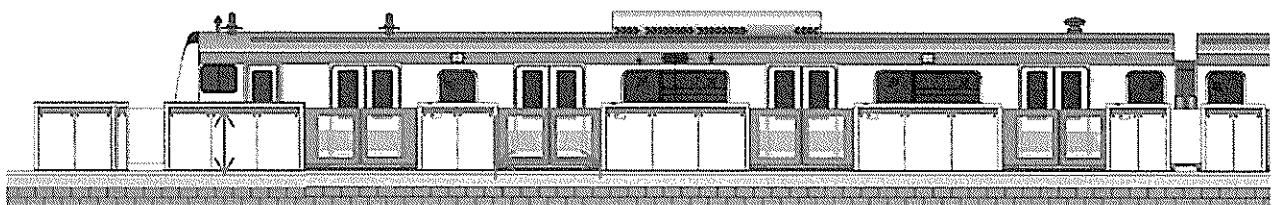
浦和駅 京浜東北線（1・2番線）ホーム  
さいたま新都心駅 京浜東北線（1・2番線）ホーム

### 2 工期

工期は2016年7月から1年程度を予定しています。  
※使用開始日は、決まり次第あらためてお知らせします。



ホームドア設置イメージ（浦和駅）



高さ 1.3m

開口幅 2.0m



# II.「東武グループ中期経営計画」の推進

H28.5.13 東武鉄道  
2015年度決算説明会  
プレゼンテーション資料 (抜粋)

基本戦略1 鉄道事業の利便性・安全性の向上

さらなる安全性の向上

## ホームドア(可動式ホーム柵)の導入を推進

～安全性と信頼性を高める取り組みでさらなる安心を提供～

### ■ホームドア(可動式ホーム柵)の導入・推進

#### 和光市・川越

- ・和光市駅(16年3月使用開始)
- ・川越駅(17年度完成予定)

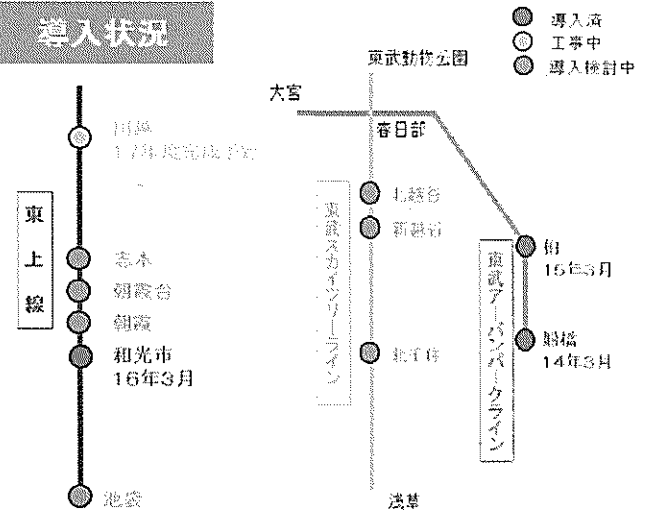
#### 北越谷・池袋・朝霞

- ・東京2020オリンピック・パラリンピック  
競技大会の競技会場最寄駅である  
北越谷・朝霞および拠点駅である  
池袋への導入を優先して検討中



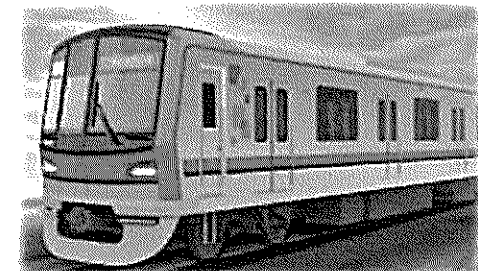
和光市駅可動式ホーム柵

### 導入状況



### ■日比谷線新型車両「70000系」(17年上期より営業運転開始予定)

- ・19年度までに日比谷線直通用車両全編成を20m7両化に更新(予定)
- ・東武スカイツリーラインの通勤車両を20m4扉化に統一することより、  
ホームドア(可動式ホーム柵)整備を促進



「70000系」エクステリアデザイン(イメージ)



2016年4月7日  
東日本旅客鉄道株式会社  
東京支社

## 赤羽駅・上野駅・大井町駅3駅の京浜東北線ホームドア工事着手について

JR東日本では、ホームにおける安全対策として、山手線へのホームドア整備を進めており、大規模改良予定駅を除く23駅に設置完了いたしました。

山手線以外のホームドア整備について、このたび、国・東京都および北区・台東区・品川区のご協力をいただき、すでに導入の検討を進めてきた大井町駅のほか、赤羽駅・上野駅の京浜東北線ホームドア工事に着手いたします。

工事期間中は駅をご利用されるお客さまにご迷惑をお掛けしますが、早期整備に努めて参りますので、ご理解とご協力をお願いいたします。

### 1. 導入箇所

京浜東北線 赤羽駅・上野駅・大井町駅

### 2. 工事着手時期

2016年4月以降

### 3. 使用開始時期(予定)

2017年3月下旬 赤羽駅

2017年度中 上野駅・大井町駅

※2017年度の使用開始時期については、別途お知らせいたします。



ホームドア設置イメージ

設置日および使用開始日は、決まり次第、当該駅のポスターでお知らせします。

2016年5月20日  
JR東日本 横浜支社

## 鶴見駅 京浜東北線ホームドア設置工事着手について

JR東日本では、ホームにおける安全対策として、山手線へのホームドア整備を進めており、これまでに大規模改良予定駅を除く23駅に設置が完了いたしました。

山手線以外のホームドア整備については、赤羽駅、上野駅、大井町駅の京浜東北線ホームで設置工事に着手いたしました。鶴見駅京浜東北線ホームにつきましても、国・神奈川県および横浜市のご協力のもと、着手することとなりましたのでお知らせいたします。

工事期間中は駅をご利用されるお客さまにご迷惑をお掛けしますが、早期整備に努めて参りますので、ご理解とご協力をお願いいたします。

1. 導入箇所 鶴見駅 京浜東北線ホーム

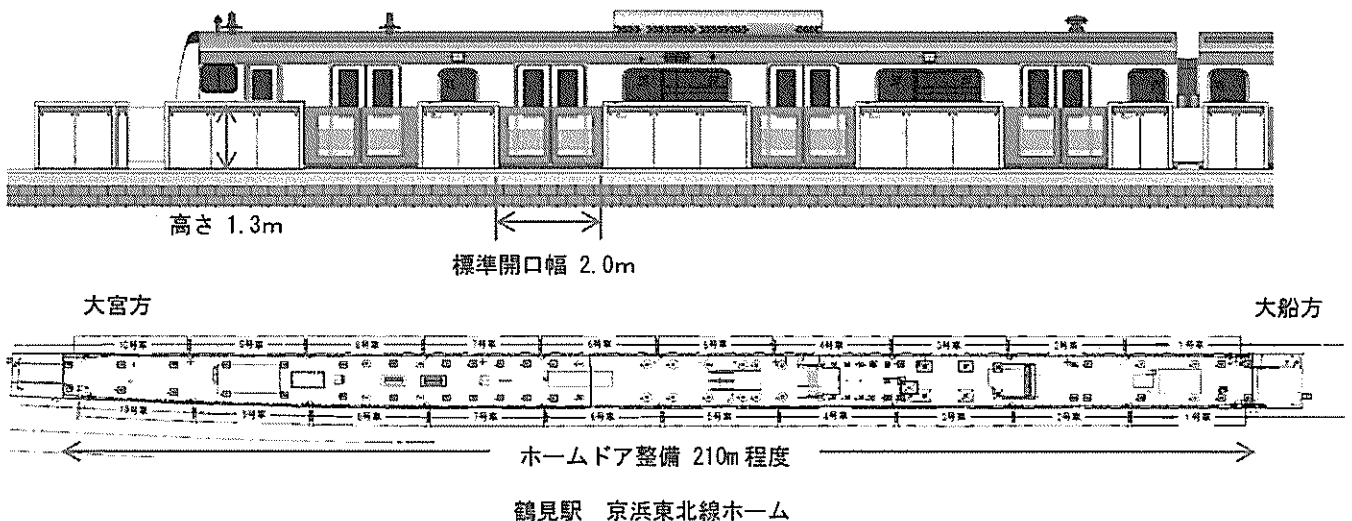
2. 工事着手時期 2016年6月以降

3. 使用開始時期 2017年度中予定

※設置日および使用開始日は、決まり次第  
駅のポスター等でお知らせいたします。



ホームドア設置イメージ



2016年6月8日  
東日本旅客鉄道株式会社

## 駅改良の工事計画について

東京 2020 オリンピック・パラリンピック競技大会(以下、「東京 2020 大会」)期間中にお客さまのご利用が多く見込まれる競技会場周辺の駅や、ベイエリア競技会場等への主要乗換え駅において、改札口やコンコースの拡張、バリアフリー設備の拡充等の駅改良を計画してまいります。

この度、千駄ヶ谷駅・信濃町駅及び原宿駅について具体的な計画がまとまりましたのでお知らせいたします。

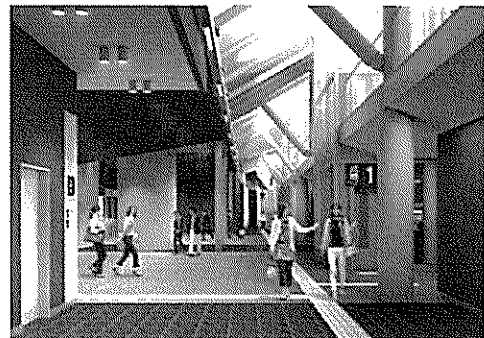
### 1. 駅改良工事を実施する駅

#### (1) 千駄ヶ谷駅

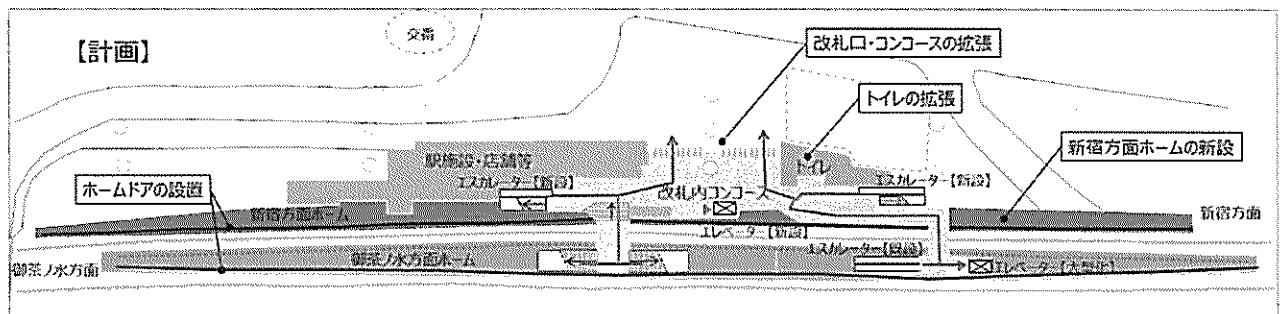
- ① 現在、使用していない臨時ホームを新宿方面の専用ホームにします。
- ② 改札口やコンコースを拡張し、混雑緩和を図ります。
- ③ お客さまの動線がスムーズになるよう、新宿寄りに改札口を移設します。
- ④ ホームドアを新たに設置し、安全性の向上を図ります。
- ⑤ エレベーターの増設等、バリアフリー設備を拡充するほか、トイレを拡張します。



駅外観



改札内コンコース



※現時点でのイメージであり、実際と異なる場合があります。

## (2) 信濃町駅

- ① ホームドアを新たに設置して安全性の向上を図ります。
- ② エレベーターの増設やトイレの拡張を行います。

## (3) 原宿駅

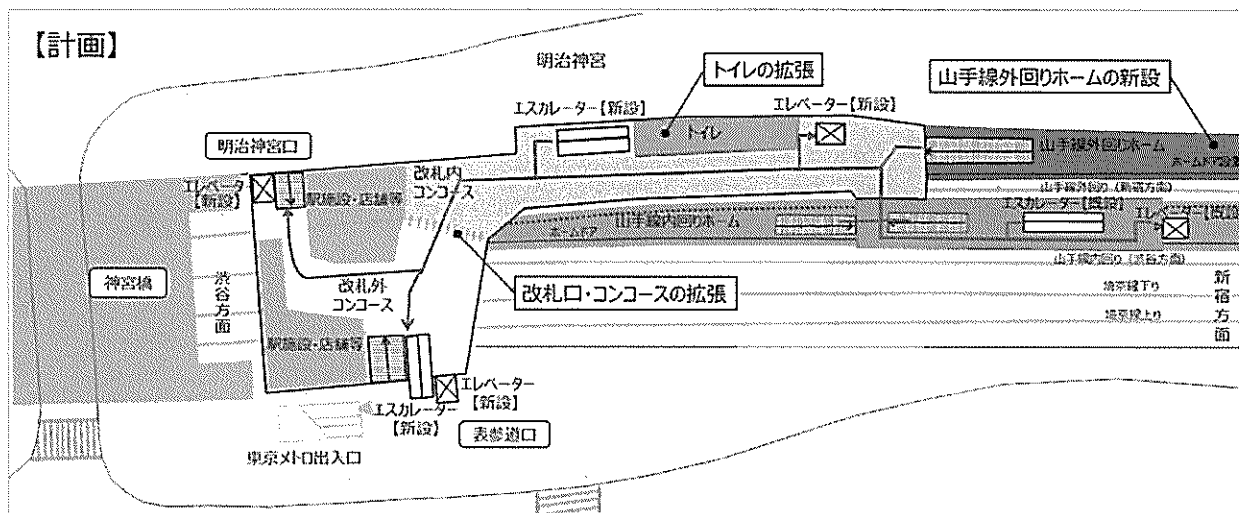
- ① 現在、年始のみ使用している臨時ホームを外回り専用ホームにします。
- ② 線路及びホーム上に2層の駅舎を新設し、コンコース、改札口、トイレを拡張して混雑緩和を図るほか、エレベーターを増設します。
- ③ 明治神宮側に新たに出入口を設置します。
- ④ 今回新設する外回り専用ホームは、通路で竹下口改札にも接続します。



駅外観(明治神宮側)



改札内コンコース



※現時点でのイメージであり、実際と異なる場合があります。

今回、駅改良を計画している3駅の工事費総額は約 250 億円を見込んでおります。

※なお、バリアフリー設備・ホームドアの整備については、国や自治体などのご支援をいただき、進めてまいります。

## 2. 駅改良を計画中の駅

主な駅 : 有楽町駅、新橋駅、浜松町駅、日暮里駅、大井町駅、新木場駅 等  
改良内容 : コンコース拡張、エレベーター増設等のバリアフリー設備拡充 等

今後、検討を進め、計画がまとまり次第、お知らせいたします。



東京2020オフィシャルパートナー(旅客鉄道輸送サービス)

## デジタルサイネージ体型の マルチメディアホームドアを共同開発

-6月27日（月）から東横線武蔵小杉駅で、7月以降大井町線溝の口駅で  
鉄道情報配信の実証実験を開始-

東京急行電鉄株式会社  
日本信号株式会社  
三菱電機株式会社  
旭硝子株式会社

東京急行電鉄株式会社（以下、東急電鉄）と日本信号株式会社（以下、日本信号）、三菱電機株式会社（以下、三菱電機）、旭硝子株式会社（以下、AGC旭硝子）は、共同でデジタルサイネージ体型のマルチメディアホームドア（以下、本ホームドア）を開発し、6月27日（月）より東横線武蔵小杉駅で、7月以降大井町線溝の口駅で実証実験を開始します。

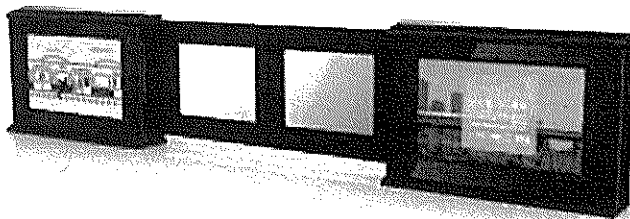
本ホームドアは、AGC旭硝子が開発したガラス一体型デジタルサイネージ「inforverre®（インフォベール）」を三菱電機および日本信号が制作するホームドアの戸袋部分に設置し、東急電鉄がコンテンツ配信の仕組みと運用モデルを構築します。

今回の実証実験では、鉄道業界では最大規模となる55インチサイズのデジタルサイネージを組み込んだ本ホームドアを東横線武蔵小杉駅、大井町線溝の口駅の一部に設置し、屋外環境での技術的課題を検証すると共に、デジタルデバイスを組み合わせたホーム上での新たな情報発信に積極的に取り組んでいきます。

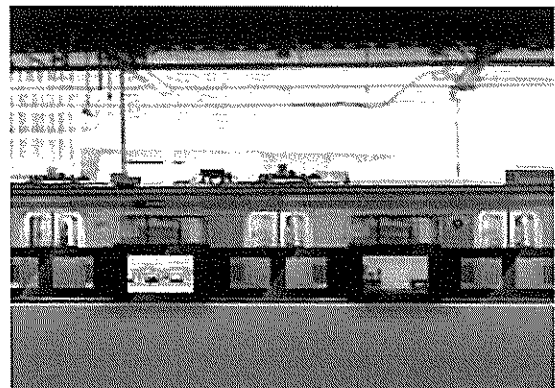
東急電鉄は、沿線の皆さまがイキイキと働き、快適に暮らし、楽しみのある街を実現するために、「いい街 いい電車 プロジェクト」に取り組んでいます。

その一環として、あらゆるお客さまが安全・安心にご利用いただける鉄道を目指し、2020年を目標に東横線・田園都市線・大井町線の全64駅へのホームドア設置を計画しています。

今般の実証実験の結果により、一部駅においては本ホームドアの導入を検討し、東急線ご利用のお客さまのさらなる利便性向上を目的に、さまざまなコンテンツを表示していきます。



マルチメディアホームドアイメージ



設置イメージ

※「inforverre®（インフォベール）」はAGC旭硝子の登録商標です。

以上

**【別紙】**

〈マルチメディアホームドア実証実験の概要〉

■実験内容：ホームドアにデジタルサイネージを設置し、屋外環境での耐久力、配信情報の訴求力を検証

■配信コンテンツ内容：通常時：マナー啓発、沿線プロモーション映像、整列乗車案内など  
その他鉄道情報の配信  
異常時：運転再開見込みなどの運行情報を表示（お知らせモニターと同様）  
※コンテンツは実証期間中に変更していく予定です。

■実証実験対象駅ならびに実証実験期間※

(1) 東横線 武蔵小杉駅 4番線ホーム（渋谷方面）  
10両編成（8両編成） 6号車（4号車）2番目ドア両サイド（2面）  
運用開始予定日：2016年6月27日（月）

(2) 大井町線 溝の口駅 3番線ホーム（大井町方面）  
6両編成（5両編成） 3号車（2号車）3番目ドア両サイド（2面）  
運用開始予定日：2016年7月以降

※実証実験期間については武蔵小杉駅、溝の口駅それぞれ約一年間の予定

□お問い合わせご意見

本実証実験についてのお問い合わせ・ご意見については東急お客さまセンターにて承ります。

東急お客さまセンター

TEL：03-3477-0109

<http://www.tokyu.co.jp/customer/>（Webお問い合わせフォームよりお問い合わせください）

月～金 8:00～19:00 土日祝 9:30～17:30（年末年始などを除く）